

朝日村 2050 ゼロカーボンビジョン

～村民一人ひとりができること～

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



「持続可能な開発目標(SDGs)」は、持続可能な世界を実現するための 17 ゴール・169 のターゲットから構成され、13 番目が気候変動に関する項目で 2016 年から 2030 年までの国際目標です。

令和4年4月策定

令和7年4月改定

1. ゼロカーボンビジョン策定の目的

地球温暖化により異常気象や気象災害が世界各地で発生しています。日本では、原因となっている温室効果ガスの排出を 2050 年までに実質ゼロにする「2050 年カーボンニュートラル」を 2020 年 10 月に表明しました。

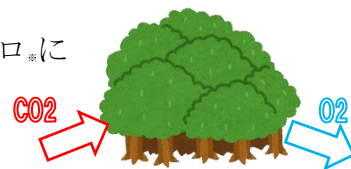
長野県では、2019 年 12 月に「気候非常事態宣言—2050 ゼロカーボンへの決意」を行い、朝日村もこの宣言に賛同しています。

朝日村の約 87%は山林が占めており美しく、豊かな自然に恵まれています。この自然を次世代に残してくために、朝日村独自の 2050 年までにできる具体的な取り組み内容を定め、持続可能な社会を目指していきます。

ゼロカーボン（カーボンニュートラル）ってなに？

温室効果ガスである二酸化炭素（カーボン）の排出が実質ゼロになることを指します。

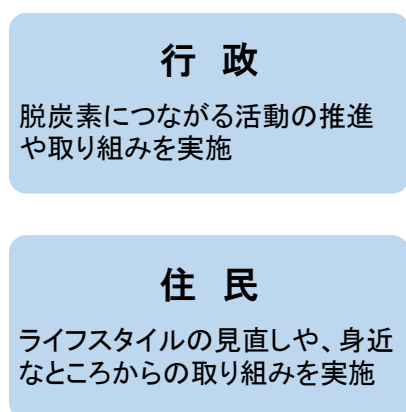
※実質ゼロ・・・森林が吸収する二酸化炭素の量などを差し引いて、全体を±0（プラマイゼロ）とすること。



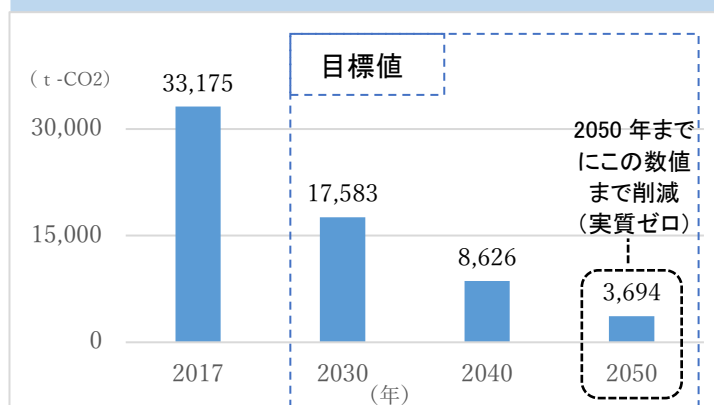
2. 朝日村でゼロカーボンにむけてできること

2050 年までにゼロカーボンを達成するというのは大変難しい問題であり、このままの状態が続くと今後さらに気象災害への影響が甚大化し、私たちの身近な問題へと発展する恐れがあります。

この問題に向けて、行政と住民が協力していくことが重要です。また、村民一人ひとりが「いますぐにできること」に取り組むことが不可欠です。本ビジョンでは、この「いますぐにできること」に重視した取り組み内容を定め、一人ひとりの行動により 2050 年のゼロカーボンを目指していきます。



朝日村が目指す二酸化炭素(CO2)排出量



【出典】「長野県ゼロカーボン戦略」より
算出した数値を人口割りで朝日村の数値に変換したものです。
目標数値の算出は、J クレジットの調査・研究をしていく過程で
算出していきます。

(1) 行政としての取り組み

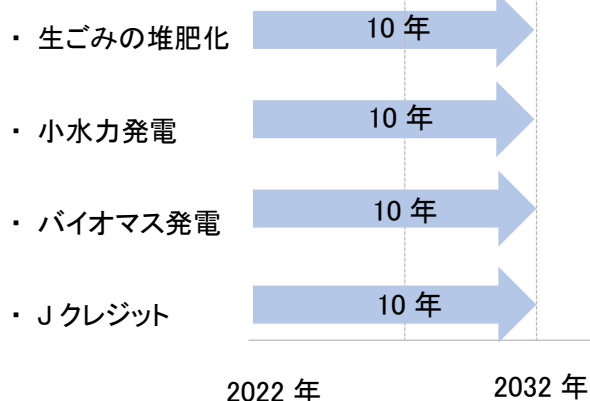
朝日村では、2050 ゼロカーボンに向けて、下記の課題を10年間の取り組み内容として、調査・研究をしていき2050 ゼロカーボン実現を目指します。

また、令和4年2月より、松本市と信州大学が中心となって民間の脱炭素化事業を支援する産学官連携組織「松本平ゼロカーボンシティ・コンソーシアム」に参加いたしました。松本平の自治体・企業とも協力をして課題に取り組んでいきます。

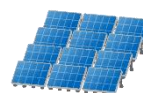
《 調査・研究課題 》

- 可燃ごみとして処理している生ごみの堆肥化
- 朝日村の豊富な水を利用した小水力発電
- 自然の資源を利用するバイオマス発電
- 森林の二酸化炭素吸収率を売買する
Jクレジット

《 各課題の目標期間 》



①再生可能エネルギーの導入



村内施設への太陽光発電設置やバイオマス発電・小水力発電などの再生可能エネルギーの導入を検討していく。規模や場所、地域共生も踏まえて今後検討していきます。

②森林保全



森林には光合成による二酸化炭素(CO₂)の吸収はもちろん、生物多様性の保全、土砂災害の防止、水源のかん養、保健休養（森林浴やハイキングなど）の場の提供など多くの多面的機能を有しています。また、朝日村の約87%は森林が占めているので豊かな資源を守るためにも森林保全への推進活動や、森林の二酸化炭素(CO₂)吸収量を売買可能な「クレジット」として販売をする「Jクレジット制度※」についても研究をしていきます。

※Jクレジット制度とは…二酸化炭素(CO₂)等の排出削減・吸収量を「クレジット」として企業等に売買する国が認証する制度です。

③電気自動車の導入



令和6年度現在村が保有している電気自動車は2台となっております。今後は台数を増やしていき、住民の方にも使っていただけるEV充電スポットの設置も推進していきます。

(2) 村民一人ひとりの取り組み

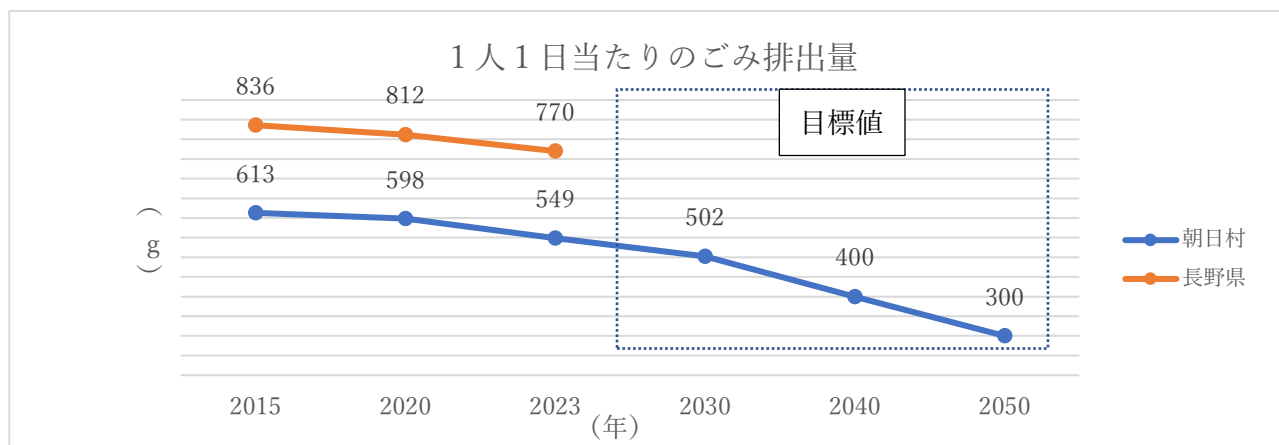


『ごみの排出量の現状』

1人1日当たりのごみ排出目標 2020年 **598g** → 2050年 **300g**

日常で排出されるごみは、最終的に焼却して処理を行っているため二酸化炭素（CO₂）が発生してしまいます。発生を抑えるためにごみの削減は必要不可欠です。

朝日村の1人1日当たりのごみ排出量は、長野県内でごみの排出量が少ない自治体ですが、さらに他市町村に先駆けてゼロカーボンを目指していきます。



朝日村ごみ半減目標

長野県のごみ排出量の少なさは全国で4位となっています。朝日村は中信地区(15地区)で1位です。(令和5年度)

今後は『1日ミニトマト1個分(約15g)』のごみ削減を目標に一人ひとりがごみを減らすことを心がけましょう。まずは始めることが大切です。



① ごみ半減に向けての具体的な行動



ごみ排出量を半減するにあたり、「物をごみにしない」ことが大切になってきます。「食品ロス」「4R」「信州プラスチックスマート運動」を意識した行動をしていきましょう。

食品ロスの削減

使い切れる分だけ買う

食材を計画的に買うことで消費期限切れや、傷んで廃棄するといったことを防ぐことができます。

食べ残しを出さない

料理をするときなどは、食べきれ的分だけ作り食べ残しを出さないように心がけましょう。

過剰除去に気をつける

野菜の切れ端や葉などは、捨てずに利用するのも食品ロスの削減につながります。

4R

信州プラスチックスマート運動

リフューズ (Refuse) 不要なものは断る	リデュース (Reduce) 使う量を減らす	意識して「選択」 ・そのストロー、レジ袋本当に必要ですか？ 	少しずつ「転換」 ・使い捨てからマイボトル、マイバックへ 	分別して回収 ・使い終わったら分けてリサイクル 
リユース (Reuse) 繰り返し使う	リサイクル (Recycle) 資源ごみとして回収			

② 村の事業を利用した排出を抑える行動



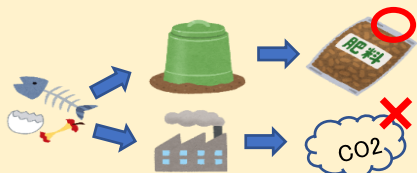
生ごみ排出目標 2020 年燃えるごみ **4割** → 2050 年 **1割**

生ごみ処理機の購入補助を利用して排出削減と再利用

家庭から排出されるもえるごみの4割は、生ごみが占めています。生ごみは、コンポスターや生ごみ処理機で自家処理をすれば、もえるごみの減量が大きく期待できます。

また、家庭菜園などで使える堆肥作りにもなり、削減と再利用の両方につながります。

補助事業を活用して家庭から排出される生ごみを減らしていきましょう。



朝日村地域環境整備事業補助金

▶ 補助金額：購入金額3千円以上の1/2 以内
(上限3万円)



ウッドチップターの貸し出しを利用して排出削減と再利用

村では、剪定木の削減を目的とした「ウッドチップター」の無料貸し出しを行っています。

剪定木はウッドチップにすることで様々な再利用ができます

できたチップを撒けば土への日光を防ぎ、雑草などの防草効果、土の保温保湿効果、霜の防止等、期待ができます。

※貸し出しは講習会を受講した方のみとなっています。受講を希望する方は、建設環境課(99-4103)までお問い合わせください。

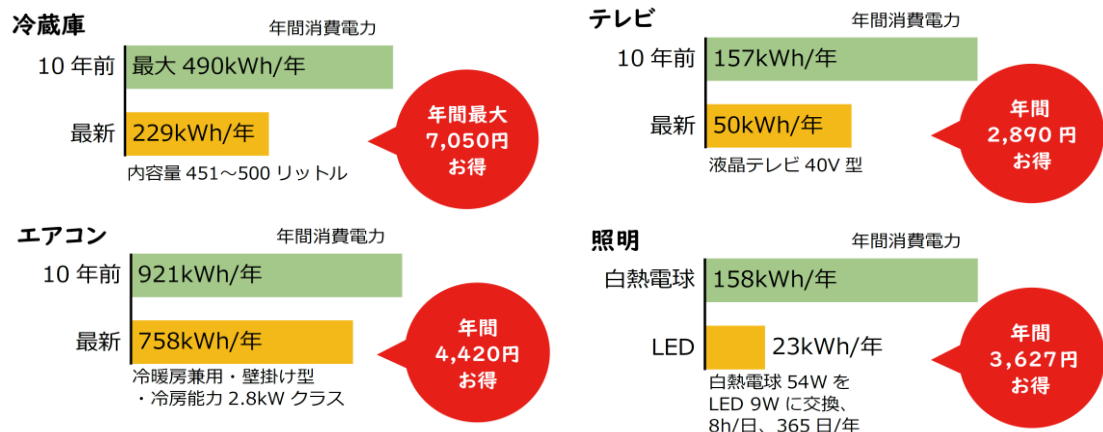


③ 電化製品の交換で節約をしていく行動



家電や照明は、省エネ性能の高い機器に買換えることで、年間の消費電力の削減が見込めます。必要のないとき以外は、電源を切って効率よく家電を使いましょう。

また、令和4年度より家庭の電気使用量を削減する目的として、省エネ性能の高い冷蔵庫に買換えようとする個人に補助金交付事業を実施しております。



[出典]信州ゼロカーボン BOOK より

省エネ家電製品普及促進補助金

▶補助金額：冷蔵庫の買換えに対し 10 分の 1 上限（1万円）



省エネ製品にすることで
環境はもちろん家計にも優
しい取り組みになります！

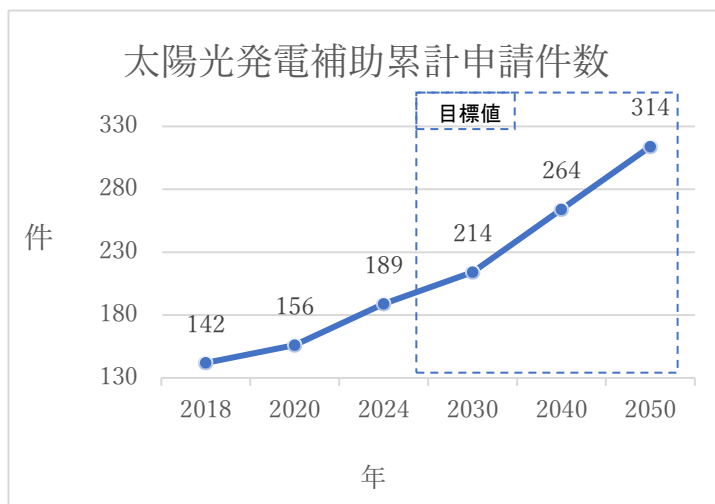
④ 再生可能エネルギーの普及促進



太陽光発電補助累計申請目標 2020 年 **156 件** → 2050 年 **314 件**
(2010 年より補助開始)

新エネルギー普及促進補助事業活用で、太陽光発電・蓄電システム（住宅用）、薪ストーブ、ペレットストーブを利用し二酸化炭素（CO₂）を削減していきます。

また、長野県では、既存住宅への太陽光発電・蓄電池補助事業を実施しており、村の補助と併用が可能です。村では、地球温暖化実行計画の一般家庭部門削減量の 2 分の 1 を太陽光で削減することを目指します。



再生可能エネルギー関連補助金

朝日村新エネルギー普及促進事業補助

- ▶ 太陽光発電 : 4万円/kw (上限 12万円)
- ▶ 蓄電池 : 費用の 1/3 (上限 10万円)
- ▶ 薪・ペレットストーブ : 費用の 1/5 (上限 5万円)



既存住宅エネルギー自立化補助金(長野県)

- ▶ 太陽光発電+蓄電池 : 定額 20万円
- ▶ 蓄電池のみ : 定額 15万円
- ※ 太陽光パネル単体の補助は対象外です



自宅の屋根の適正がわかる 信州屋根ソーラーポテンシャルマップ



⑤ 住宅の省エネ化



省エネ性・断熱性の高い家は、光熱費を安く抑えられ、太陽光発電などの併用で、年間のエネルギー使用量を実質ゼロにした住宅（ZEH）にもできます。

県は ZEH 等の環境配慮型住宅への補助金による支援や、『家庭の省エネサポート制度』による省エネへのアドバイスをしています。

(補助詳細については HP をご覧ください)

デコ活による脱炭素

環境省が推進しているデコ活でゼロカーボンに向けた取り組みをしてみませんか。

住宅関連補助金

信州健康ゼロエコ住宅助成金(長野県)

- ▶ 補助金額
- (新築) 最大 200 万円
- (リフォーム) 最大 140 万円



⑥ 日常生活でできる温暖化対策

日常生活の中にも、ちょっとした行動で二酸化炭素を減らし温暖化の対策になることがあります。まずは、下に挙げた取り組みのうちできることから始めてみましょう。

日常生活でできるエコアクション！

① リサイクル製品でエコアクション！



出典: JCCCA

② 詰め替えてエコアクション！



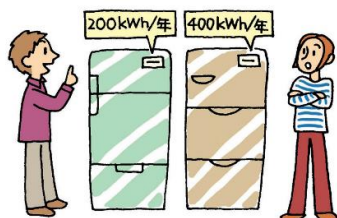
出典: JCCCA

③ 公共交通機関や自転車の利用でエコアクション！



出典: JCCCA

④ 省エネ家電でエコアクション！



出典: JCCCA

⑤ マイバックでエコアクション！



出典: JCCCA

⑥ 包装の少ないものを選びエコアクション！



出典: JCCCA

⑦ お風呂・トイレでエコアクション！



出典: JCCCA

シャワーの利用時間を1日1分短くする	74g
風呂の残り湯を洗濯に使いまわす	7g
入浴は間隔をあけずに行う	86g
使わないときは温水洗浄便座のフタを閉める	15g

CO2削減量g

⑧ キッチンでエコアクション！



出典: JCCCA

炊飯器の保温をやめる	37g
ガスコンロの炎をなべ底からはみ出さないように調節する	5g
冷蔵庫にものを詰め込み過ぎない	18g
冷蔵庫を壁から適切な間隔で設置する	19g

CO2削減量g